

の顔色見るなり、ケロツと病氣を忘れた様な顔してナ。よふ来て呉れた一遍逢ひ度かつたんや。西瓜の冷いのん喰えへんか、わいも一切れ交際ふでや云ふてまんねがナ。呆れて物も云われへん依て、直ぐ歸ろと思たら伯母はんが、まア久し振りに來たんや無いか、そない逃げる様にせんかて、暫く位遊んでいんだら何ふや云やはる物やさかい、ツイ恍かりして饒舌てたら晩の御飯出して呉れはつてナ。何ぼ何でも箸置くなり歸る譯にも往けしまへんやろがナ。鳥渡世間話の一つもして歸ろと思てたら伯母はんが毎時もの息子自慢、いつまで経ても話が絶れしまへんねがナ。とふど夜が更けて仕舞ふて、こない晚ふに女の一人歩きは危険い。まア泊たら何ふや、喜やんも眞逆恐がりもしやへんやろて云やはるもんやさかい。まア朝早ふ歸たら同じ事やと思ふて泊めて貰ひましたんや。朝御飯よばれて歸りかけてたらお醫者はんが來やはりましてナ。伯母はんが薬を貰ひに往て來る間店番して、呉れ云ふて頼まれたら嫌やとも云われしまへんやろ、番してたら彼様な小さな店やのに陸續々々お客さんが買ひに來まんねがナ。伯母はんは店へ出るワ伯父さんはヤレ水呉れのソレ薬飲ませと用事云ひ附けるし、ゴタ／＼してる内にもウ晝御飯、氣の悪い事せん喰べて去にいな云やはるので、よばれて歸ろと思ふたら日中でガン／＼日が照てますがナ。せめて片影になるまで晝寐でもしいナ。阿呆らしい茲何年と云ふ物晝寐てな事した覺えはおまへんワ、云ふてる内に矢つ張りウツ／＼とした物と見えて眼が覺めて見たら恰度三時、あゝ大きに永居いたしました云ふたら、お前に喰べさと思ふて素麵を茹でて

るね、もう直ぐ出来るさかい喰べて去に。お徳さん。妾いもいやしいやおまへんか、素麵の冷えるのん待つて斯んなお茶碗に二杯もよばれて、まだ晚御飯までと云やはつたのを振り切る様にして歸て來ましたんや、大きにお世話はんでおました、内に居まつか、左様か大きに、又晩に浪花橋へでも涼みに往こやおまへんか、涼み船が仰山出て賑やかにおますと、へエ御免……此此方の人。まア此の暑いのに宜ふ精が出るやないか。一遍チョツと一服してやつたら何ふや。今隣りで云ふてたん聽こえたアつたやろ。何も心配する事あれへんね。ホンの感冒……お、嫌やのやのやの。日陽歩いて來て内らが暗い物やさかい。仕事してるのやと許り思てたら、着物着替えて仕事場に平太張てるワ。鳥渡目を放したら直ぐ是れや、仕事放つたらかして、何様するつもりや。いゝえいな、何處何處へ往くのんやいな。ガラ／＼／＼／＼／＼。

『桑原々々』。

『そら何を云ふね。桑原々々やなんて、貴方がそんな事云ふ依てに世間の人が妾いの事を雷のお松てな名前命けるのやないか、現在我が女房を雷や云われて嬉しいのんか、仕事をしんか、何處へ往くね。』

『嗚、チョツと丈け遣つてんか。』

『何處へ往くのんやいな。』

『淨瑠璃の會やね。』